

2019年度

北河内二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

大阪アプローチ

圏域ごとのデータに基づく分析をもとに
公民のイコールフットイングで
病床機能分化の議論を進める

Contents

- 1 北河内二次医療圏の概要
 - (1) 今後の医療需要の見込み
 - (2) 医療体制の概要
 - (3) 疾患別の状況
 - (4) 入院患者の推移
 - (5) 在宅医療提供体制
 - (6) 診療実態の分析の結果
- 2 高度急性期から急性期(急性期一般※)の概要
 - (1) 病床の現状
 - (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
 - (3) 現状と課題のまとめ
- 3 急性期(地域一般※)から回復期の概要
 - (1) 病床の現状
 - (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
 - (3) 現状と課題のまとめ
- 4 長期療養(慢性期)の概要
 - (1) 病床の現状
 - (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
 - (3) 現状と課題のまとめ
- 5 将来のあるべき医療体制に向けて
 - (1) 2025年に各病院が検討している病床機能
 - (2) 2025年に各病院が検討している病床機能のまとめ

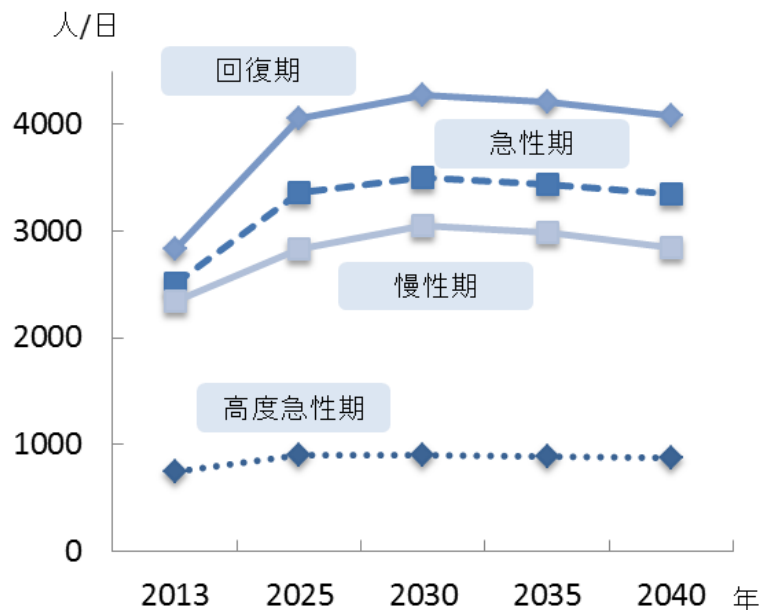
※急性期一般入院基本料 (旧7対1、10対1)

※地域一般入院基本料 (旧13対1、15対1)

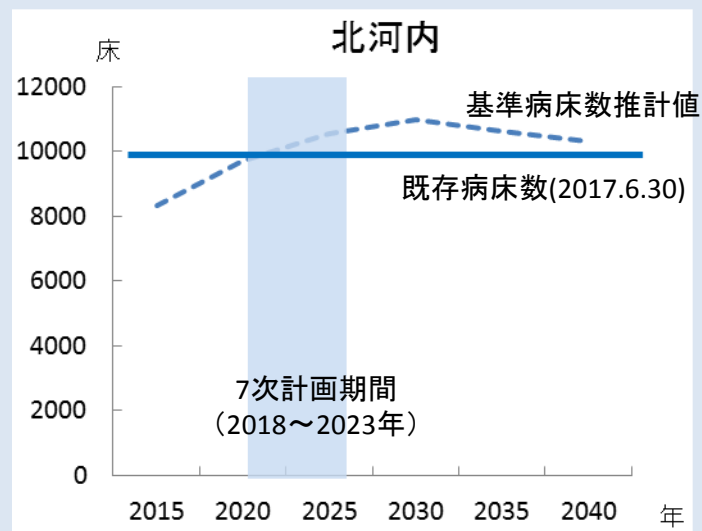
1 北河内二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

北河内二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要(特に、急性期と回復期)が増加する見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みにおいて、今後、既存病床数を上回る可能性あり
 ※毎年、基準病床数推計値の見直しを検討する

	2013年		2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)		(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	746		897	1.20	906	1.21	890	1.19	871	1.17
急性期	2,517		3,369	1.34	3,499	1.39	3,437	1.37	3,343	1.33
回復期	2,835		4,060	1.43	4,279	1.51	4,209	1.48	4,087	1.44
慢性期	2,340		2,837	1.21	3,058	1.31	2,989	1.28	2,845	1.22
合計	8,438		11,163	1.32	11,742	1.39	11,525	1.37	11,146	1.32

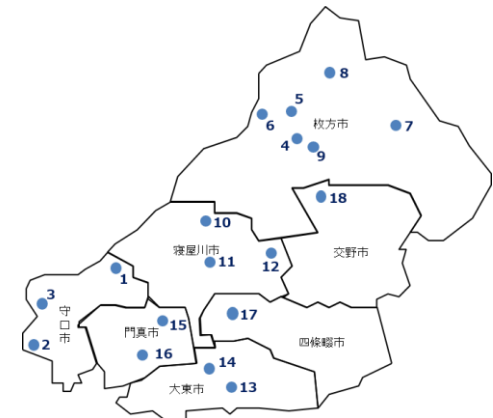
出典 第7次大阪府医療計画
一部改編

1 北河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

北河内二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が1病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が4病院である

●主な医療施設の状況

所在地	病院名	新 公立 病院 改革 プラン 補 足 調 査 対 象	公 的 医 療 機 関 等 2 0 2 5 プ ラン 対 象 病 院	特 定 機 能 病 院	地 域 医 療 支 援 病 院	社 会 医 療 法 人 開 設 病 院	公 的 医 療 機 関 等	府 立 病 院 機 構	在 宅 診 療 後 方 支 援 病 院	が ん 診 療 拠 点 病 院	三 次 救 急 医 療 機 関	災 害 拠 点 病 院	特 定 診 療 災 害 医 療 セ ン タ ー	周 産 期 母 子 医 療 セ ン タ ー	感 染 症 指 定 医 療 機 関	結 核 病 床 を 有 す る 病 院	エイ ズ 治 療 拠 点 病 院	
守口市	社会医療法人弘道会守口生野記念病院					○												
	学校法人関西医科大学関西医科大学総合医療センター									○	○	○						
	パナソニック健康保険組合松下記念病院		○		○		○	○										
枚方市	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター	(○)					○	○					○					
	市立ひらかた病院	○					○									○		
	関西医科大学附属病院		○	○						□	○	○			□		○	
	国家公務員共済組合連合会枚方公済病院		○		○		○		○									
	社会医療法人美杉会佐藤病院					○				○								
	独立行政法人地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センター		○		○		○			○							○	
寝屋川市	社会医療法人弘道会寝屋川生野病院					○												
	社会医療法人山弘会上山病院					○												
	一般財団法人大阪府結核予防会大阪病院															○		
大東市	医療法人仁泉会阪奈病院															○		
	医療法人徳洲会 野崎徳洲会病院								○									
門真市	社会医療法人弘道会萱島生野病院					○												
	社会医療法人蒼生会蒼生病院					○												
四條畷市	社会医療法人信愛会暁生会脳神経外科病院					○												
交野市	社会医療法人信愛会交野病院					○												
合計		1注	4	1	3	8	5	1	3	6	2	2	1	1	1	2	2	



2019年5月末時点
【対象病院数57の内訳】
公立病院：1
公的病院：4
民間等病院：52

※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。

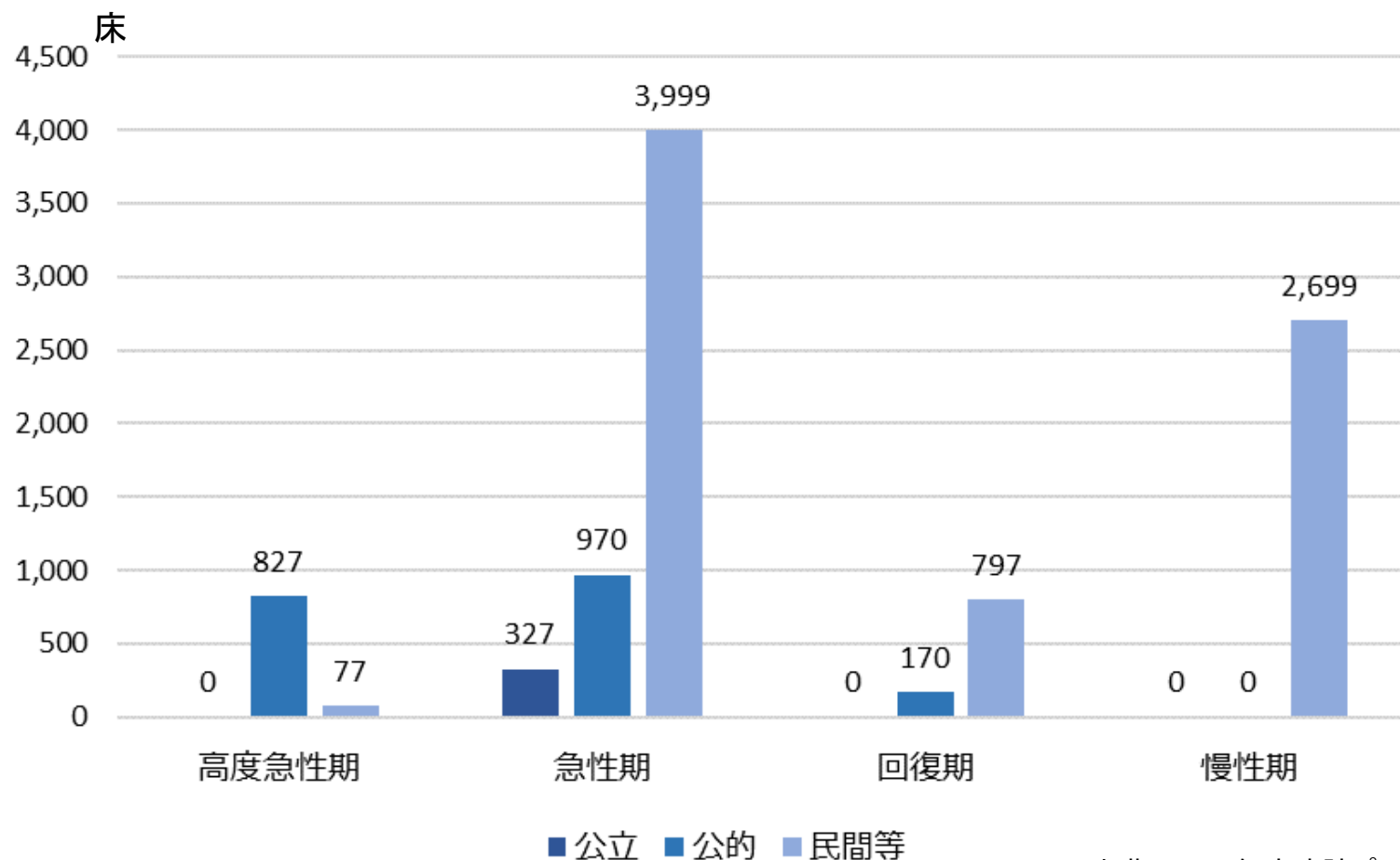
※ 「周産期母子医療センター」の□印は「総合周産期母子医療センター」、○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

注：大阪精神医療センターは新公立病院改革プランの対象病院であるが、病床機能報告対象病院ではないため、合計数にカウントしていない

1 北河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要②(病床機能別実態)

急性期・回復期・慢性期において、民間病院等が有する病床数が多い

● 病床機能別病床数 (病院プラン等提出58病院(公立1、公的4、民間等53))

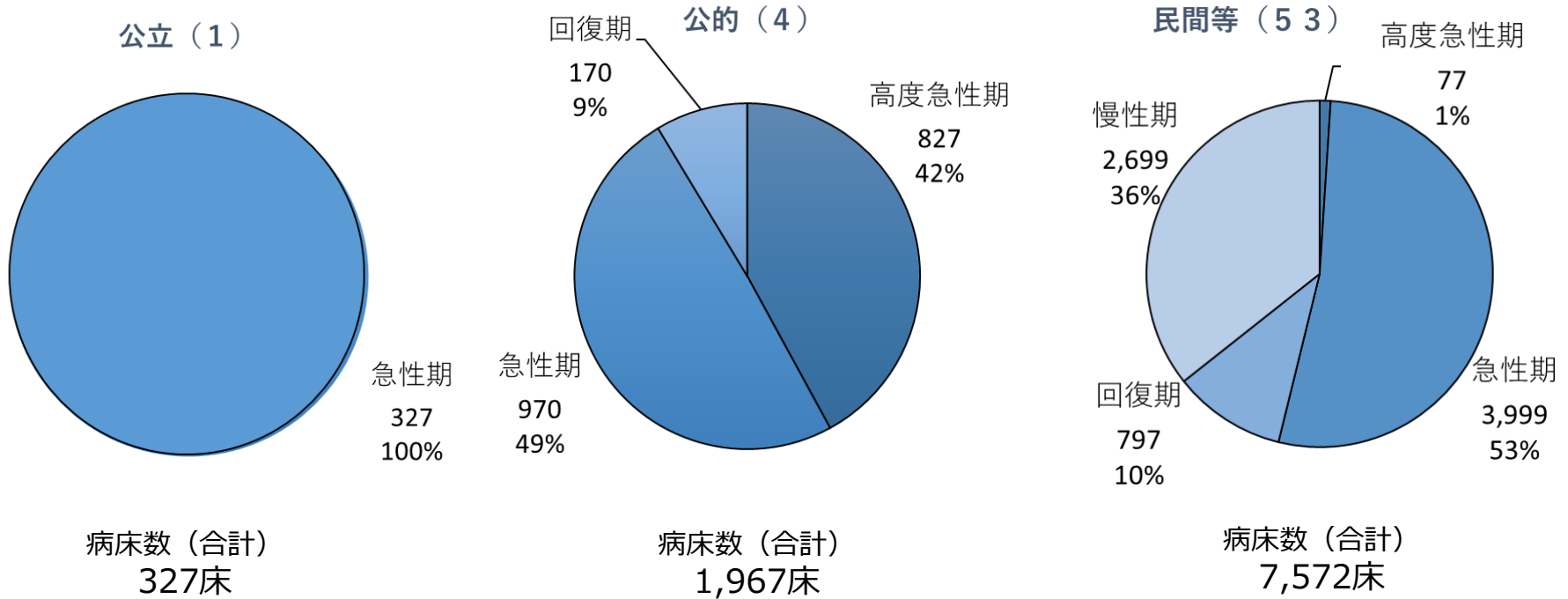


出典 2018年度病院プラン調査等

1 北河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要③(公民別病床機能)

公立・公的・民間等、それぞれにおいて有する 病床機能の割合は異なっている

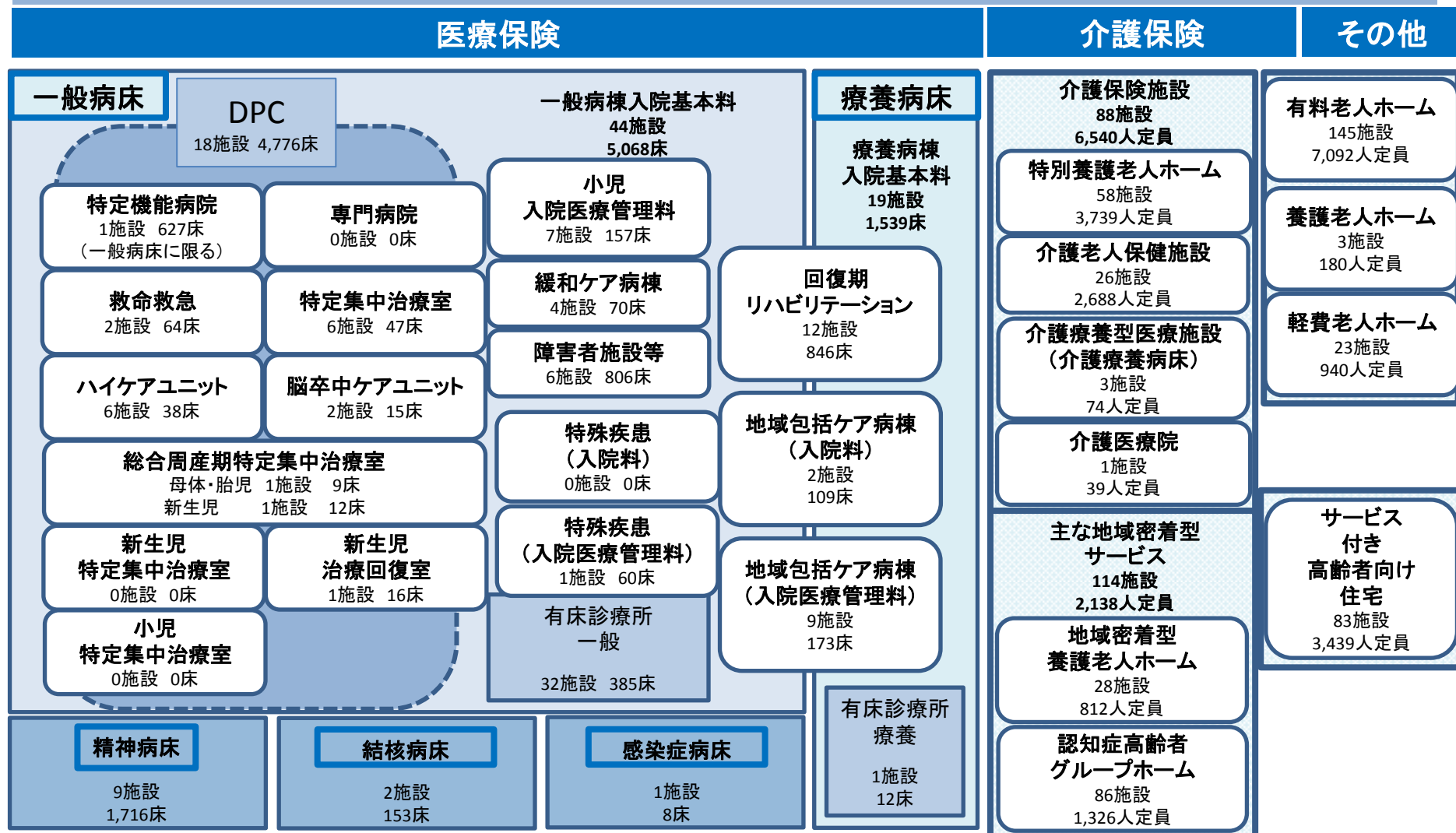
●公民別病床数の病床機能別割合(病院プラン等提出58病院(公立1、公的4、民間等53))



出典 2018年度病院プラン調査等

1 北河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要④(医療介護提供体制)

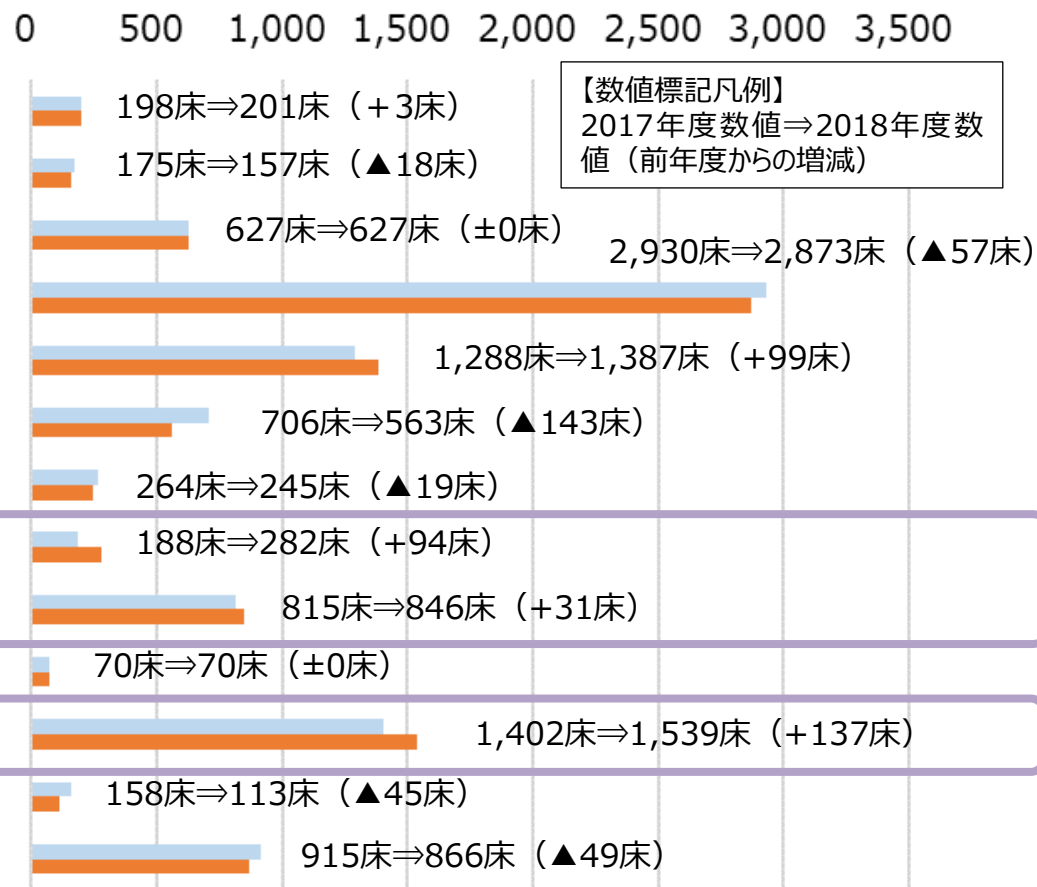
医療・介護提供体制は、多くの機能・施設から構成されている



1 北河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑤ (入院料別の経年変化)

地域包括ケア病棟・回復期リハビリテーション病棟 ・医療療養病棟の報告病床数は、増加傾向

●入院料別報告病床数の推移



【数値標記凡例】
2017年度数値⇒2018年度数値
(前年度からの増減)

■ 2017 ■ 2018

出典 病床機能報告 (結果は暫定集計)

1 北河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑥(転換補助金)

「病床転換促進事業補助金」の交付病院数は府全体で増加傾向であり、北河内二次医療圏においては2病院に対し、交付実績がある

病床転換促進事業補助金（実績）

大阪府全体

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	3	3	3	119	119	119
2016年	5	3	0	103	63	0
2017年	7	5	2	303	125	41
2018年	8	6	0	315	285	0
合計	23	17	5	840	592	160

北河内

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	1	1	1	16	16	16
2016年						
2017年						
2018年	1	1		28	28	
合計	2	2	1	44	44	16

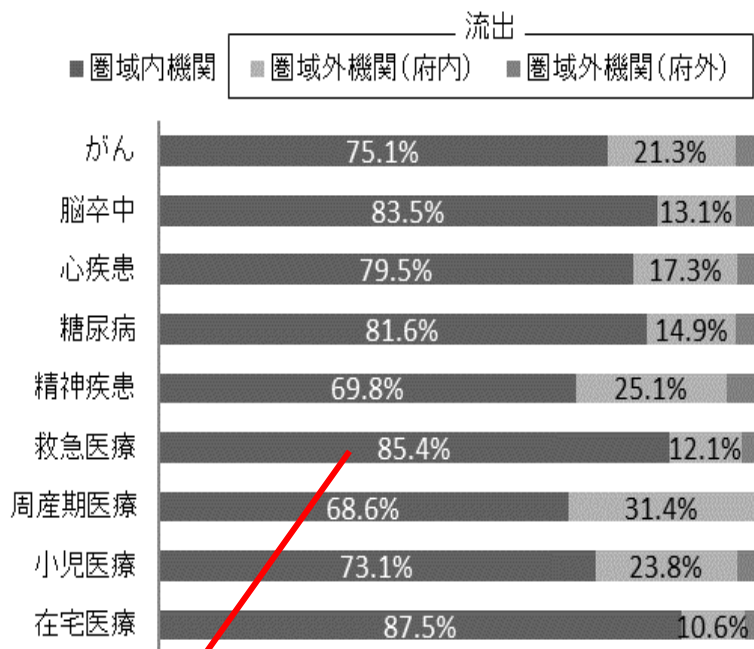
1 北河内二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況①(患者受療状況)

疾病・事業の自己完結率は、精神疾患及び周産期医療を除き、7割を超えているが、脳卒中を除き、流出超過の傾向が見られる

○5疾病4事業・在宅医療

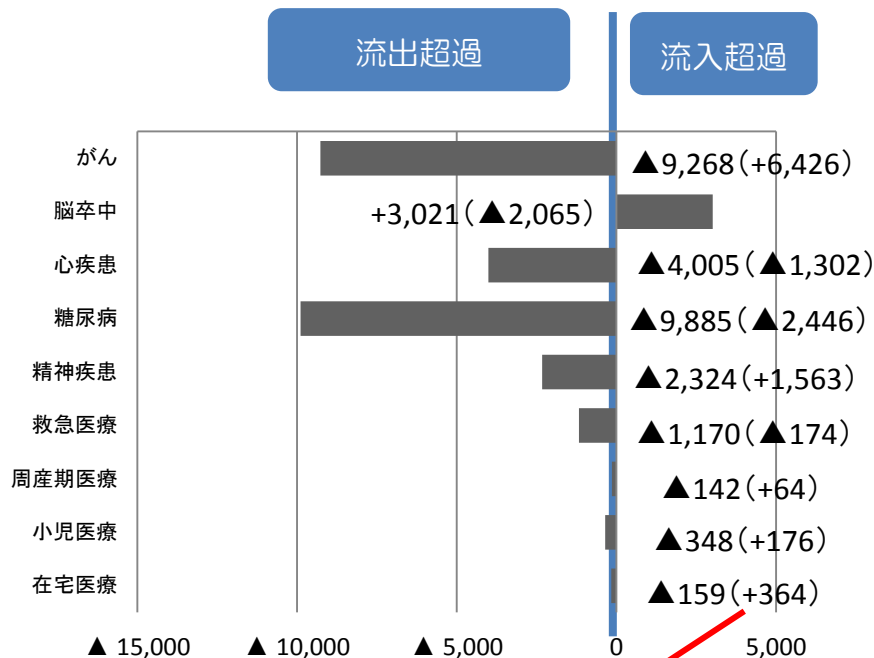
(1)患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

●住民の入院先医療機関の所在地別割合



救急医療にかかる自己完結率は「85.4%」

●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)

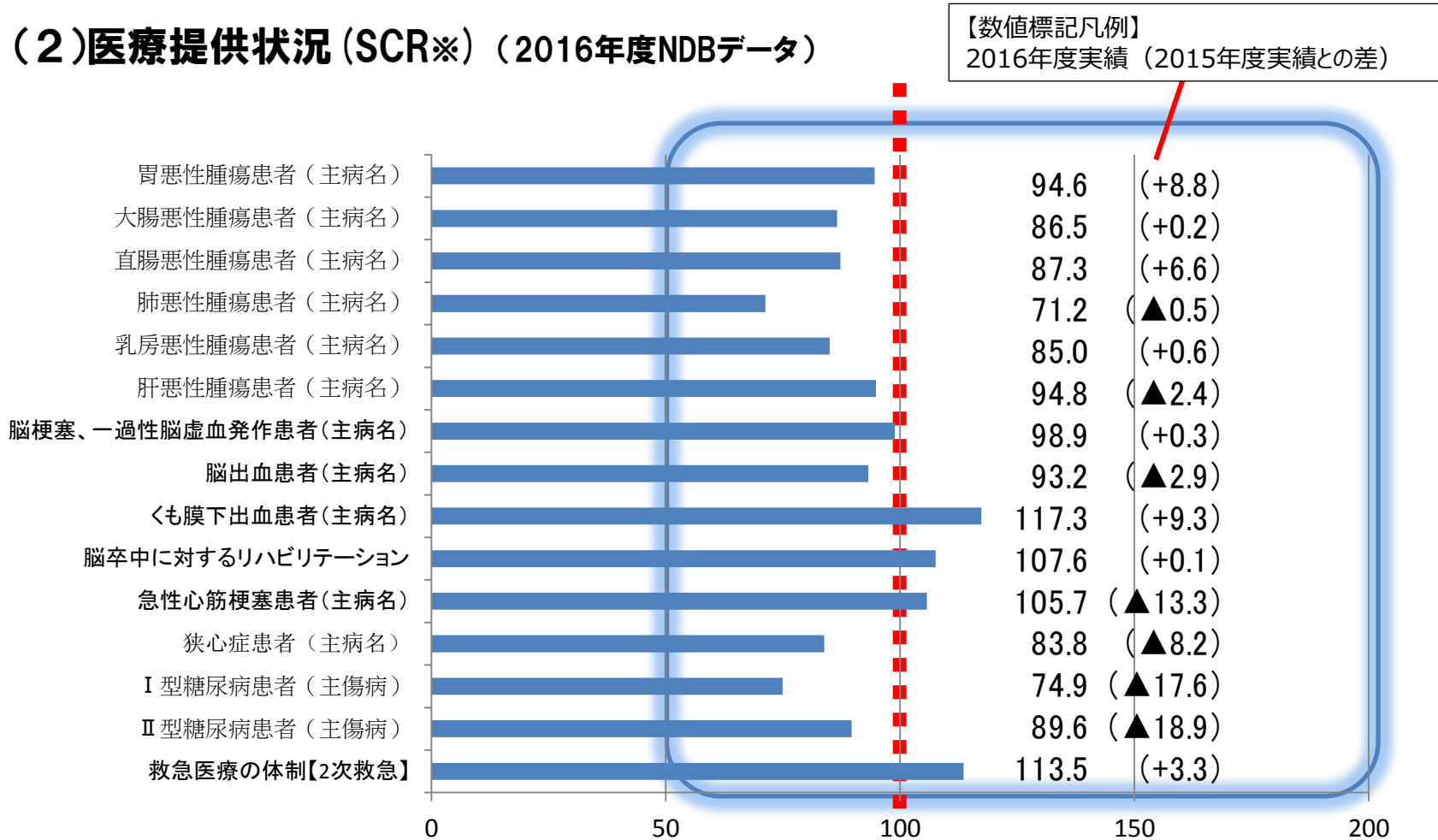


【数値標記凡例】
2016年度実績 (2015年度実績との差)

1 北河内二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況②(医療提供状況)

多くの疾患が、SCR50～200の範囲に含まれており、医療提供実績が極端に低い疾患は見受けられない

(2) 医療提供状況 (SCR※) (2016年度NDBデータ)



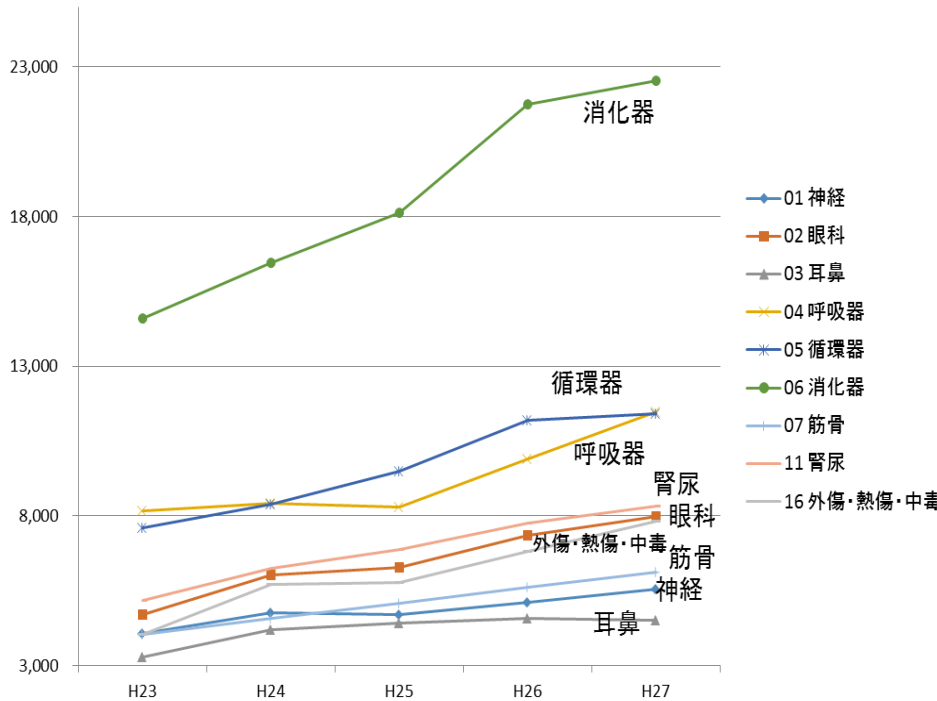
※SCR: 年齢調整標準化レセプト出現比

1 北河内二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況③(診療実績の推移)

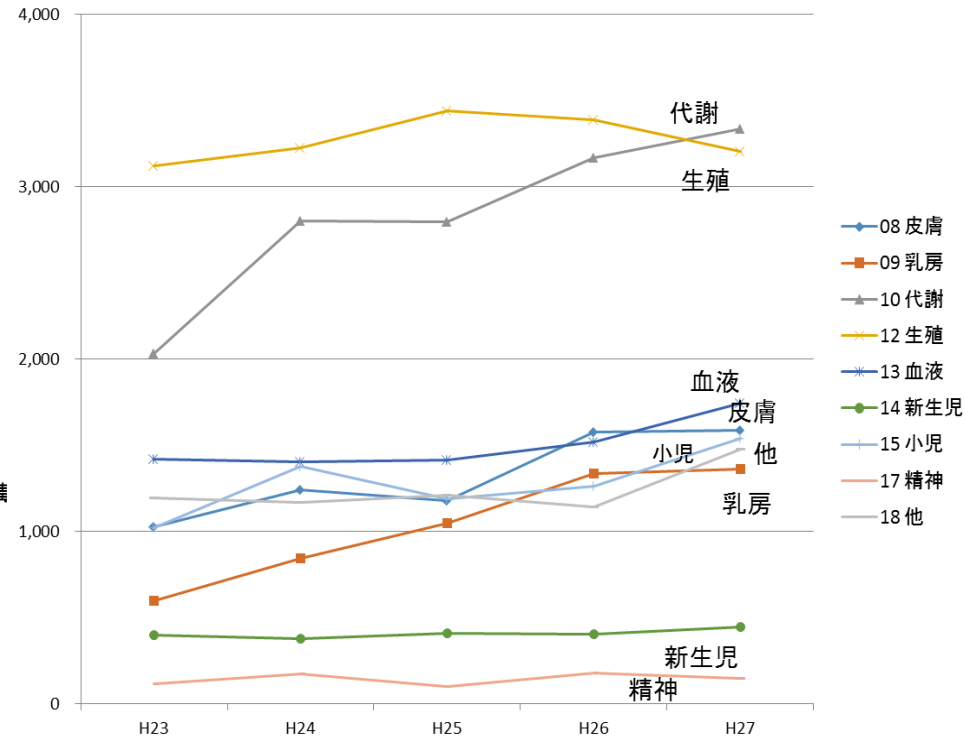
部位別の診療実績から、多くの部位において需要は増加傾向、もしくは横ばいの状態で推移している

ODPC参加病院のMDC※別診療実績の総計推移(北河内)

● 診療実績4,000件以上



● 診療実績概ね4,000件未満

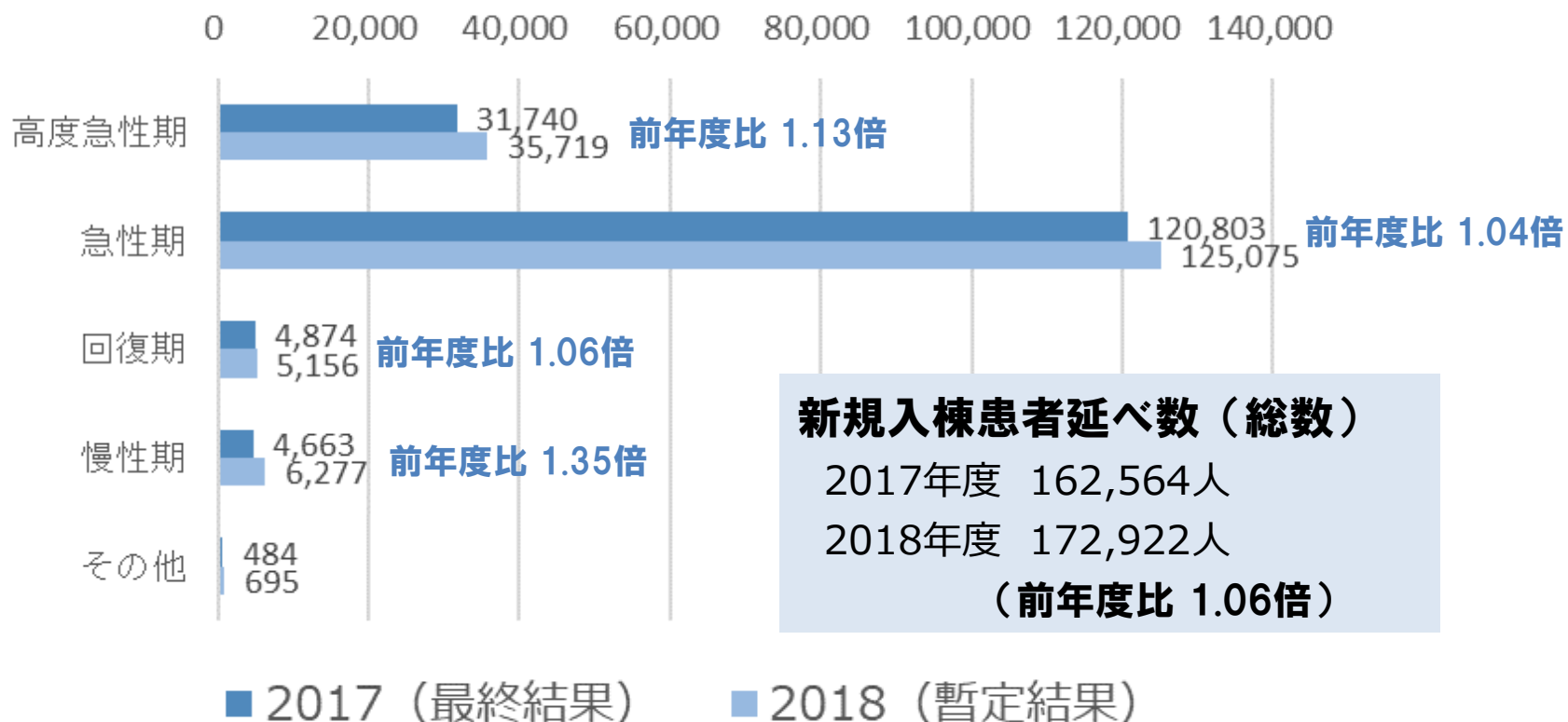


※MDC: Major Diagnostic Categoryの略、18群に分類された主要診断群

1 北河内二次医療圏の概要 (4) 入院患者の推移①(新入棟患者数)

新規入棟患者延べ数(総数)は前年度より微増しており、特に慢性期において、増加率が高くなっている

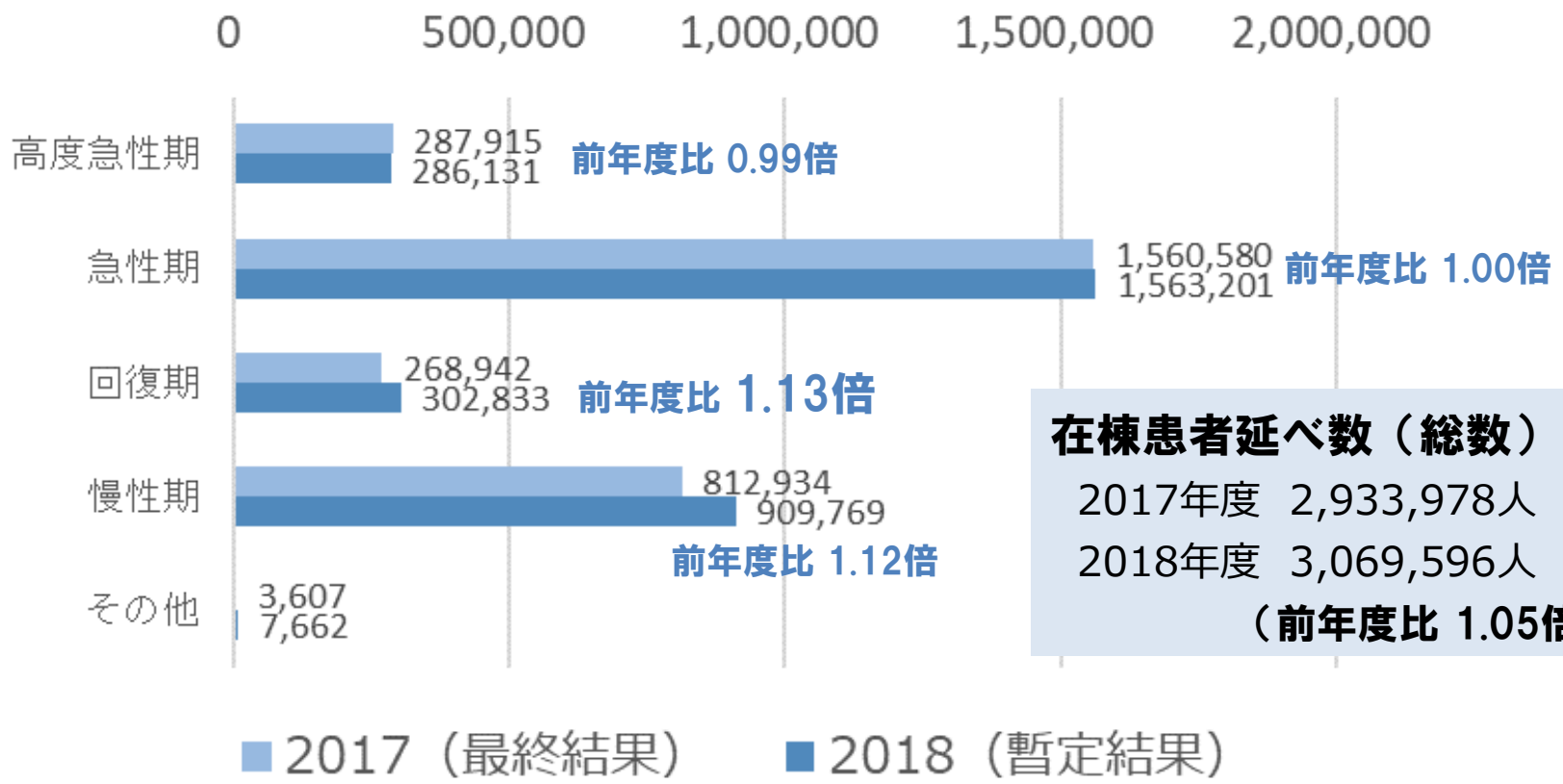
●新規入棟患者延べ数の推移



1 北河内二次医療圏の概要 (4) 入院患者の推移②(在棟患者数)

在棟患者延べ数(総数)は前年度より微増しており、特に回復期・慢性期において、増加率が高くなっている

● 在棟患者延べ数の推移



1 北河内二次医療圏の概要 (5) 在宅医療提供体制①

人口当たりの在宅療養支援病院数は、府平均より高く、在宅療養後方支援病院数と在宅療養支援診療所数は、府平均より低い

●在宅医療提供体制(人口10万人対施設数)

	訪問診療を実施している診療所	在宅療養支援診療所	再掲)機能強化型	在宅療養支援病院	再掲)機能強化型	在宅療養後方支援病院	退院支援加算届出施設数	訪問診療を実施している歯科診療所(居宅)	訪問診療を実施している歯科診療所(施設)	在宅療養支援歯科診療所	在宅患者調剤加算の届出薬局	訪問看護ステーション	再掲)機能強化型
豊能	21.9	18.5	3.8	0.48	0	0.19	2.7	9.8	7.3	11.6	15	10.5	0.19
三島	19.5	21.2	2	0.94	0.54	0.54	3.1	6.7	5.4	7.1	14.9	7.8	0.54
北河内	17.2	12.7	2.1	1.37	0.26	0.17	2.9	7.6	7.8	9.8	15.5	10.9	0.26
中河内	20.4	19.2	3.9	0.95	0.47	0.12	2.3	9.7	7.4	11.2	10.2	10.7	0.47
南河内	20.9	19.7	3.8	1.31	0.98	0.33	3.1	9.3	8.6	12.1	14.5	12.4	0.16
堺市	20.7	19.2	3.1	1.31	0.6	0.24	2.5	10.1	7.4	11.7	15.6	13.6	0.48
泉州	17.6	14.5	3.5	2.21	0.55	0.33	2.8	7.8	8.4	10.9	12	11.5	0.22
大阪市	29.1	29.2	5.2	1.3	0.71	0.63	2.9	11.1	9.3	14.5	18.7	12.3	0.48
大阪府	22.5	21	3.8	1.24	0.52	0.37	2.8	9.4	8	11.8	15.5	11.4	0.37

参照：第7次大阪医療計画一部改変

1 北河内二次医療圏の概要 (5) 在宅医療提供体制②

人口当たりの在宅医療関係施設数は、市毎にばらつきがある

●在宅医療提供体制(人口10万人対施設数)

	訪問診療を実施している診療所	在宅療養支援診療所	再掲) 機能強化型	在宅療養支援病院	再掲) 機能強化型	在宅療養後方支援病院	退院支援加算届出施設数	訪問診療を実施している歯科診療所(居宅)	訪問診療を実施している歯科診療所(施設)	在宅療養支援歯科診療所	在宅患者調剤加算の届出薬局	訪問看護ステーション	再掲) 機能強化型
守口市	32.9	24.5	6.3	1.4	0.7	0.7	4.2	9.8	9.8	7.7	15.4	11.9	0
枚方市	12.1	8.7	1.5	1.48	0	0.25	3.2	4.7	6.4	8.7	15.8	10.6	0.49
寝屋川市	16.4	11.4	2.1	2.11	0.84	0	2.5	8.8	9.3	11.8	16.8	9.7	0.42
大東市	11.4	10.6	0	0.81	0	0	2.4	6.5	5.7	8.9	17	11.4	0
門真市	24.3	17.8	1.6	1.62	0	0	2.4	12.9	11.3	15.4	12.1	13.8	0
四條畷市	8.9	8.9	0	0	0	0	1.8	7.1	5.3	10.7	16	12.5	0
交野市	20.9	14.4	2.6	0	0	0	2.6	7.8	6.5	5.2	13.1	7.8	0
北河内	17.2	12.7	2.1	1.37	0.26	0.17	2.9	7.6	7.8	9.8	15.5	10.9	0.26
大阪府	22.5	21	3.8	1.24	0.52	0.37	2.8	9.4	8.0	11.8	15.5	11.4	0.37

出典第7次大阪医療計画一部改変

1 北河内二次医療圏の概要 (6) 診療実態の分析の結果

病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、
北河内二次医療圏で約14%程度同機能への転換が必要と推計

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

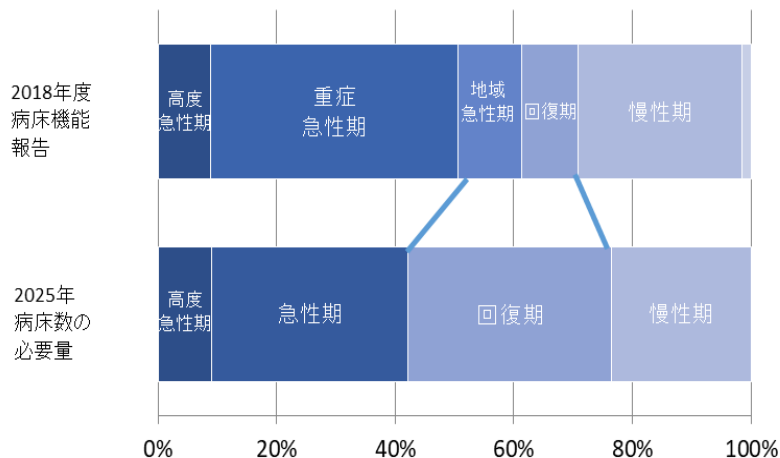
(単位:床)

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期					
病床数の必要量	2013	994	3,227			3,150	2,543			9,914
病床機能報告	2014	894	5,710			863	2,487	8	559	10,521
病床機能報告	2015	1,035	5,445			1,351	2,435	9	233	10,508
病床機能報告	2016	910	5,442			901	2,755	108	319	10,435
病床機能報告	2017	924	5,522	3,921	51	1,550	926	115	19	10,313
病床機能報告(暫定)	2018	919	5,405	4,299	0	1,106	975	165	—	
病床数の必要量【既存病床数内】	2025	943	3,404			3,555	2,430			10,332
病床数の必要量【オリジナル】※	2025	1,197	4,319			4,511	3,083			13,110

● 病床機能報告(2018年度)と病床数の必要量(2025年)の割合の比較

※地域医療構想策定ガイドラインに基づく数値

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期					
病床機能報告	2017	9.0%		38.1%	0.5%	15.1%	9.0%	27.3%	1.1%	—
病床機能報告(暫定)	2018	8.9%		41.7%	0.0%	10.7%	9.5%	27.5%	1.6%	—
病床数の必要量	2025	9.1%	32.9%			34.4%	23.5%			



サブアキュート・ポスト アキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

① 病床機能報告(地域急性期+回復期)

2017年度	24.1%
2018年度(暫定)	20.2%

② 病床数の必要量(回復期)

34.4%

割合の差
14.2%
(約1,500床)

※2018年は暫定集計(病床機能報告集計日:2019年2月15日)

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (1) 病床の現状

「一般病棟10対1」の人口10万人当たりの病床数は府平均より多く、全ての入院基本料等について、病床稼働率は府平均を上回っている

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	北河内				大阪府			
	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	201床	3床	17床	0床	2,155床	84床	24床	1床
小児入院医療管理料	157床	▲18床	14床	▲2床	1,827床	▲74床	21床	▲1床
特定機能病院一般病棟入院基本料等	627床	0床	54床	0床	5,016床	71床	57床	1床
急性期一般入院料1 (一般病棟7対1)	2,873床	▲57床	249床	▲5床	27,681床	▲369床	313床	▲5床
急性期一般入院料1【高度急性期での報告】	48床	0床	4床	0床	5,995床	332床	68床	4床
急性期一般入院料1【急性期での報告】	2,825床	▲57床	245床	▲5床	21,627床	▲376床	245床	▲4床
急性期一般入院料2～7 (一般病棟10対1)	1,387床	99床	120床	9床	8,657床	▲6床	98床	0床

●病床の利用状況

入院料区分	北河内				大阪府			
	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	81.4%	▲1.1%	6.0	1.3	75.7%	5.2%	5.1	0.4
小児入院医療管理料	77.6%	▲3.7%	6.8	0.0	70.1%	▲4.3%	6.4	▲0.3
特定機能病院一般病棟入院基本料等	87.6%	▲2.7%	10.5	▲0.6	86.2%	5.5%	11.2	▲1.0
急性期一般入院料1 (一般病棟7対1)	84.5%	▲0.5%	12.4	▲0.3	83.7%	1.8%	10.7	▲0.2
急性期一般入院料1【高度急性期での報告】	80.6%	23.8%	10.6	0.4	85.8%	0.6%	10.6	0.3
急性期一般入院料1【急性期での報告】	84.5%	▲0.9%	12.4	▲0.3	83.4%	1.5%	10.7	▲0.3
急性期一般入院料2～7 (一般病棟10対1)	79.5%	6.9%	13.8	▲0.5	78.2%	2.5%	15.4	0.3

出典 病床機能報告 (結果は暫定集計)

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ①

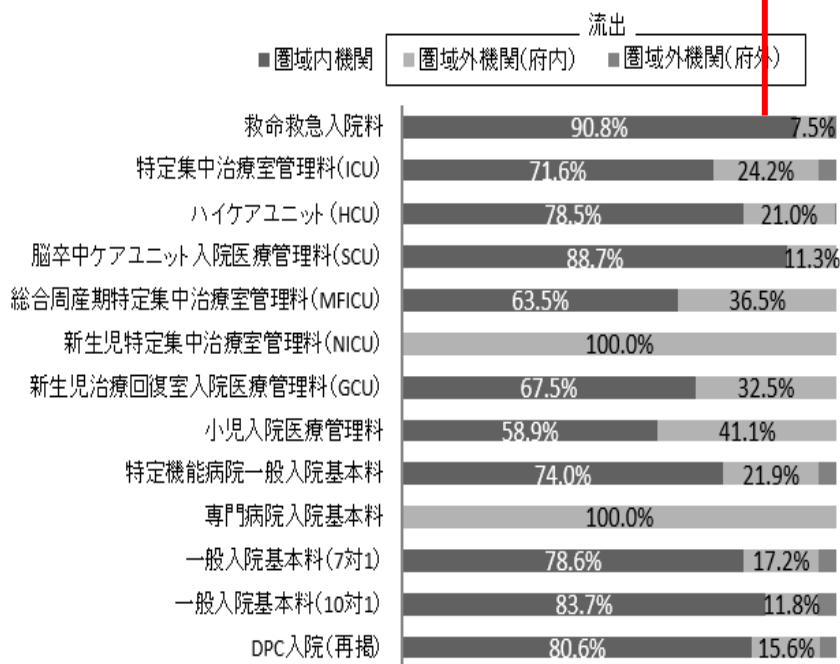
各入院料の自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は、小児・周産期にかかる病床を除き概ね約7割以上であるが、7対1入院基本料においては、流出超過の傾向が見られる

○入院基本料別の状況

(1)患者受療状況(2016年度NDBデータ[国保・後期高齢者レセプト])

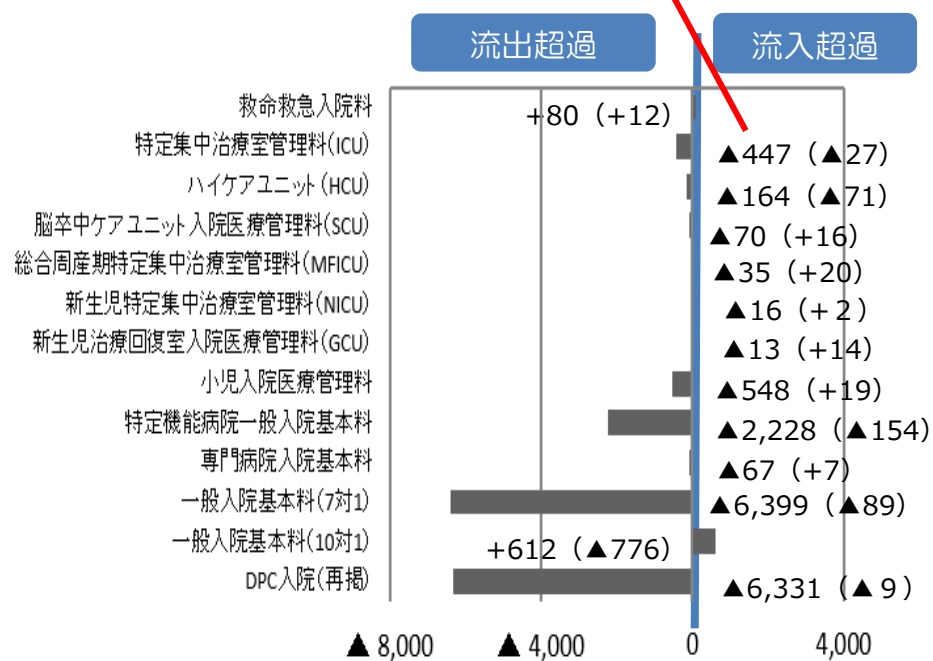
●住民の入院先医療機関の所在地別割合

救命救急入院料にかかる自己完結率は「90.8%」



●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)

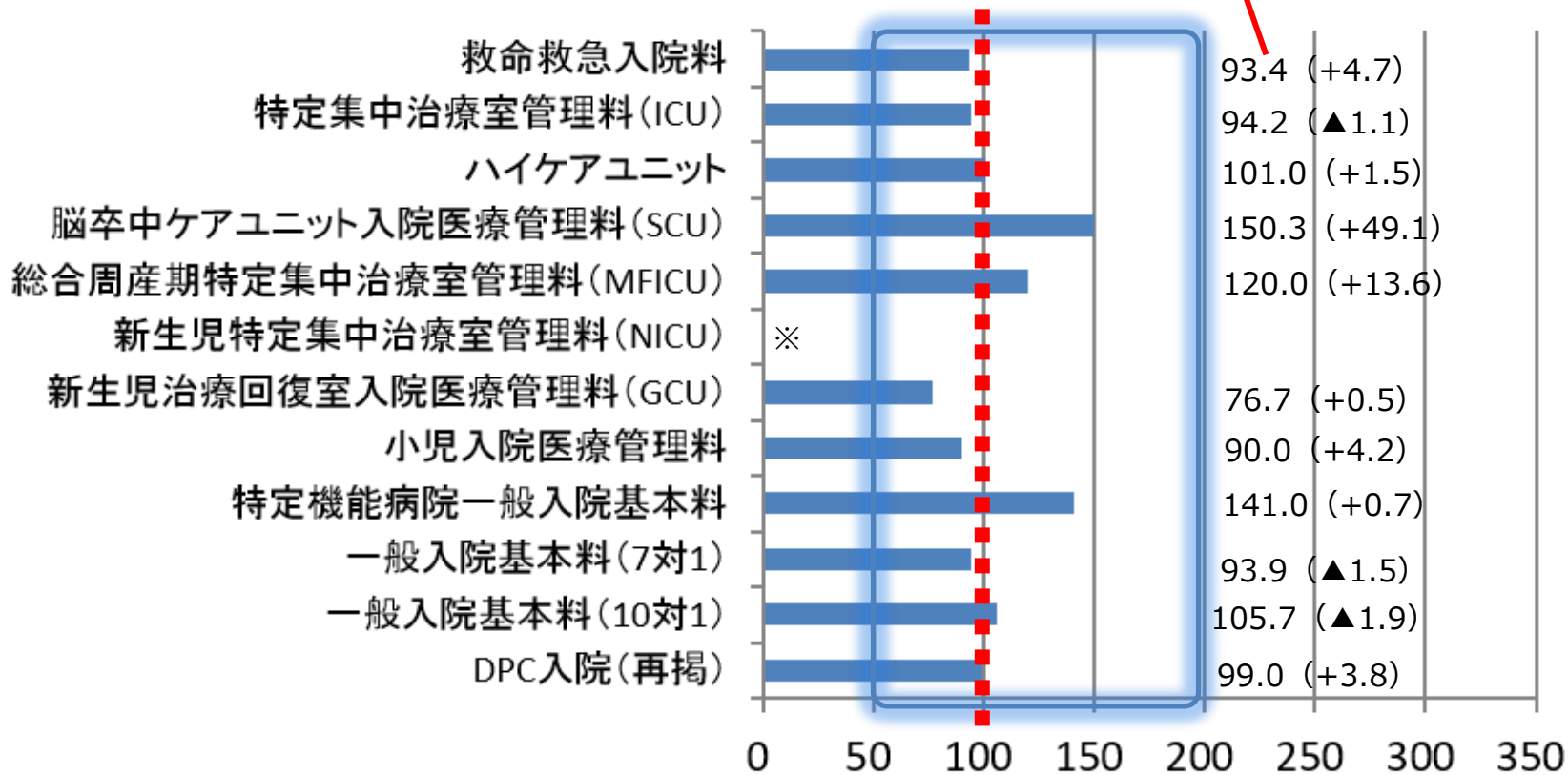
【数値標記凡例】
2016年度実績 (2015年度実績との差)



入院料のほとんどが、SCR50～200の範囲内に含まれており、医療提供実績が低い入院料は見受けられない

(2) 医療提供状況 (SCR) (2016年度NDBデータ)

【数値標記凡例】
2016年度実績 (2015年度実績との差)



※新生児特定集中室管理料は、入院料を取得している医療機関がないため未算出

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (3) 現状と課題のまとめ

○一般病棟10対1の人口10万人当たりの病床数は府平均より多く、全ての入院基本料等について、病床稼働率は府平均より高い。(スライド18)

○各入院料における自己完結率は小児・周産期にかかる病床を除き概ね7割以上となっており、「一般病棟7対1」については流出超過の傾向が見られる。(スライド19)

○今後の医療需要増加に対応していくためには、他圏域との流出入の状況等とともに、将来の病床数の必要量をふまえ、急性期の医療提供体制の在り方について検討していく必要がある。(スライド3, 10, 19)

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (1) 病床の現状

「一般病棟13対1」の人口10万人当たりの病床数は、府平均の約2倍あり、病床稼働率は低く、「地域包括ケア病棟」の人口10万人当たりの病床数は、府平均の約半分である

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	北河内				大阪府			
	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比
地域一般入院料1、2(一般病棟13対1)	563床	▲143床	49床	▲12床	2,158床	▲72床	24床	▲1床
地域一般入院料3(一般病棟15対1・特別)	245床	▲19床	21床	▲2床	2,772床	▲566床	31床	▲7床
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	282床	94床	24床	8床	3,785床	501床	43床	6床
回復期リハビリテーション病棟入院料	846床	31床	73床	3床	5,993床	141床	68床	2床
緩和ケア病棟入院料	70床	0床	6床	0床	643床	50床	7床	0床

●病床の利用状況

入院料区分	北河内				大阪府			
	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比
地域一般入院料1、2(一般病棟13対1)	62.1%	0.0%	22.5	2.8	63.5%	▲5.6%	21.6	0.1
地域一般入院料3(一般病棟15対1・特別)	68.1%	4.6%	33.4	6.2	72.5%	2.0%	38.8	4.0
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	83.7%	63.7%	19.1	11.0	83.5%	5.8%	25.2	1.2
回復期リハビリテーション病棟入院料	87.0%	2.5%	60.9	▲1.1	87.3%	▲2.3%	59.1	▲2.3
緩和ケア病棟入院料	75.9%	3.3%	22.8	▲1.6	68.3%	▲2.4%	22.9	▲2.3

出典 病床機能報告(結果は暫定集計)

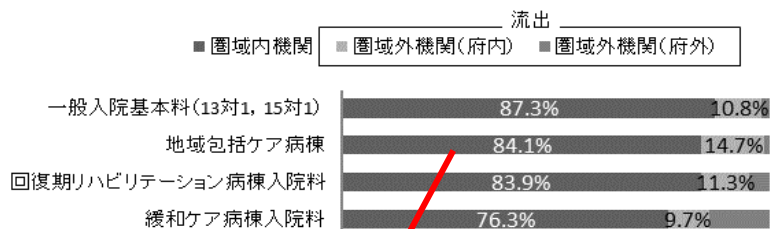
3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)①

「地域包括ケア病棟」については、自己完結率が84.1%と高くなっているが、SCRは50を下回っている

○入院基本料別の状況

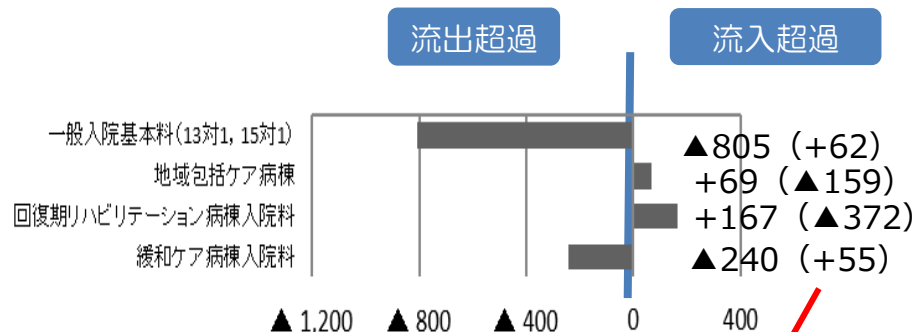
(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

● 住民の入院先医療機関の所在地別割合



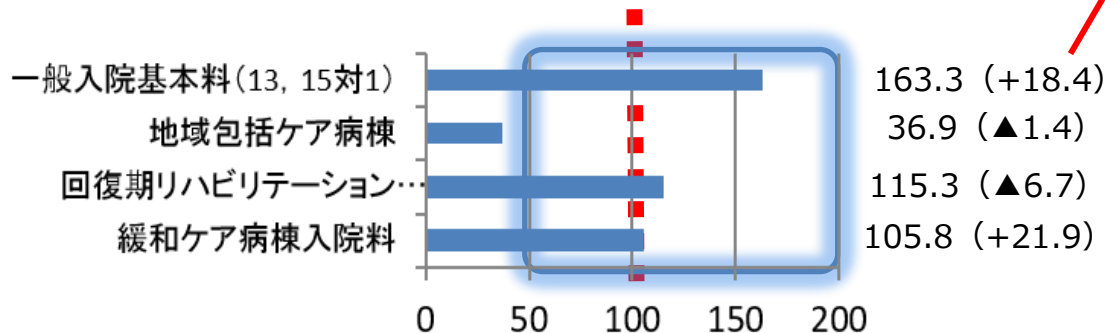
地域包括ケア病棟の自己完結率は「84.1%」

● 流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



【数値標記凡例】
2016年度実績 (2015年度実績との差)

(2) 医療提供状況 (SCR) (2016年度NDBデータ)

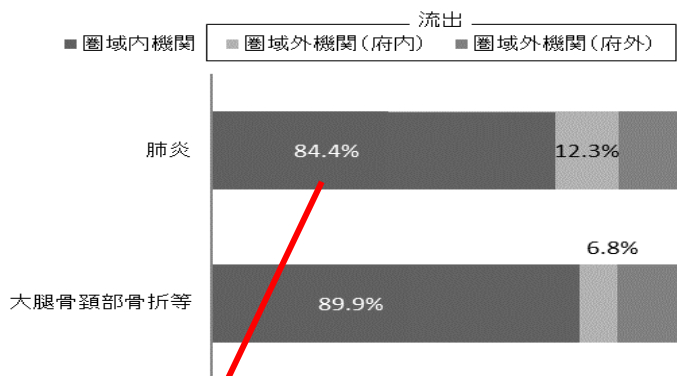


肺炎・大腿骨頸部骨折は、自己完結率が8割を超えており、SCR100程度となっている

○肺炎・大腿骨頸部骨折

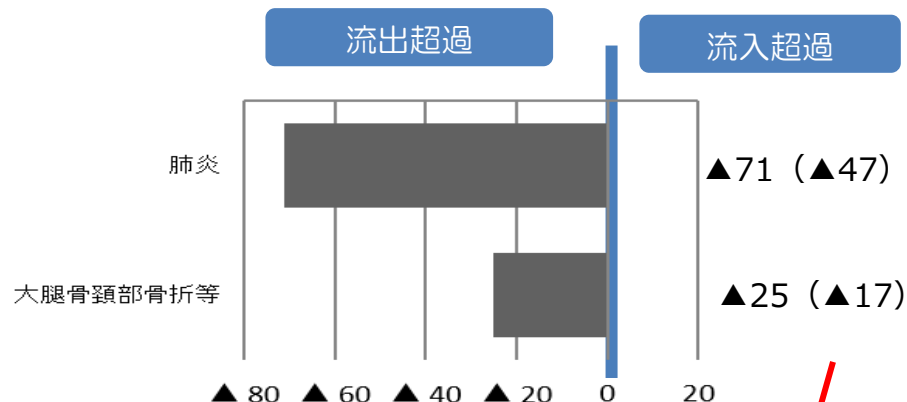
(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

●住民の入院先医療機関の所在地別割合



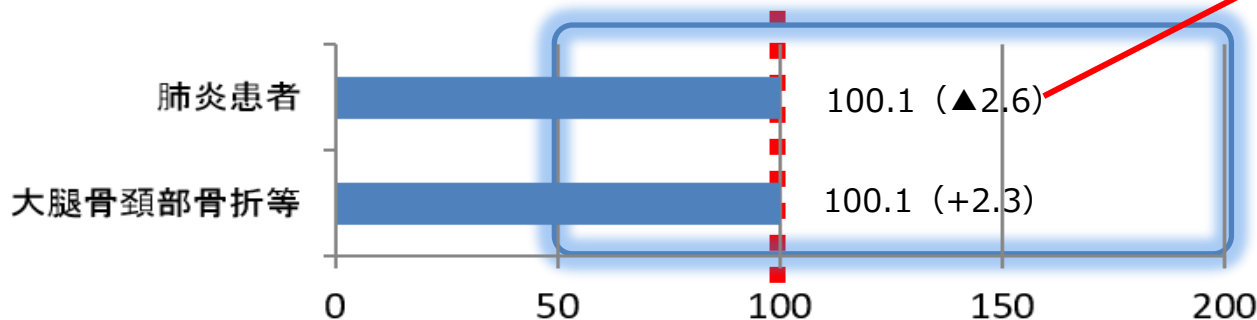
肺炎の自己完結率は「84.4%」

●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



【数値標記凡例】
2016年度実績 (2015年度実績との差)

(2) 医療提供状況 (SCR) (2016年度NDBデータ)



3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (3) 現状と課題のまとめ

○「一般病棟13対1」については、人口10万人当たりの病床数が、府平均の約2倍あり、病床稼働率は低い。(スライド22)

○「地域包括ケア病棟」については、自己完結率が84.1%と高いが、人口10万人当たりの病床数は、府平均の約半分であり、SCRも50を下回っている状況であることから、その他の機能からの転換が望まれる。(スライド22、23)

4 長期療養(慢性期)の概要 (1) 病床の現状

「療養病棟入院基本料」は、人口10万人当たりの病床数が府平均より少なく、平均在棟日数が府平均より短くなっている

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	北河内				大阪府			
	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比
療養病棟入院基本料	1,539床	137床	133床	12床	17,007床	210床	193床	3床
介護療養病床	113床	▲ 45床	10床	▲ 4床	1,483床	▲ 305床	17床	▲ 3床
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	866床	▲ 49床	75床	▲ 4床	6,295床	406床	71床	4床

●病床の利用状況

入院料区分	北河内				大阪府			
	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比
療養病棟入院基本料	92.8%	6.0%	171.8	▲ 12.0	88.6%	0.2%	209.9	▲ 7.2
介護療養病床	84.6%	▲10.9%	214.9	▲ 148.5	83.0%	▲10.0%	322.6	▲ 16.4
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	86.6%	12.2%	284.0	74.5	89.2%	2.5%	85.0	▲ 10.4

出典 病床機能報告 (結果は暫定集計)

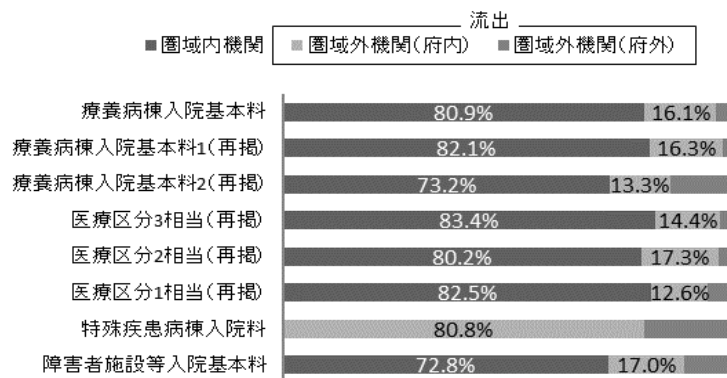
4 長期療養(慢性期)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)

「療養病棟入院基本料」は、自己完結率は約8割であり、
流入超過となっている

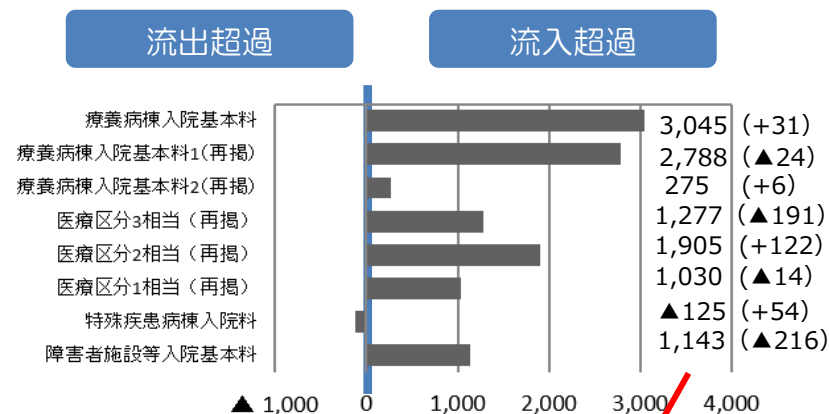
○入院基本料別の状況

(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

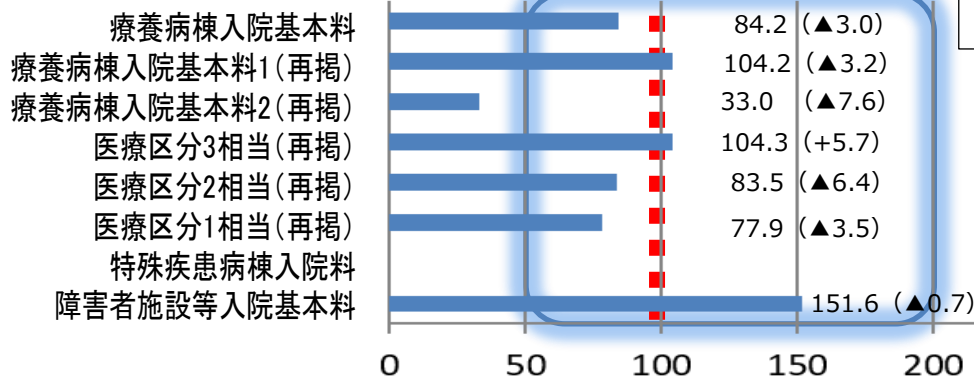
●住民の入院先医療機関の所在地別割合



●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



(2) 医療提供状況(SCR)(2016年度NDBデータ)



【数値標記凡例】
2016年度実績(2015年度実績との差)

4 長期療養(慢性期)の概要(3) 現状と課題のまとめ

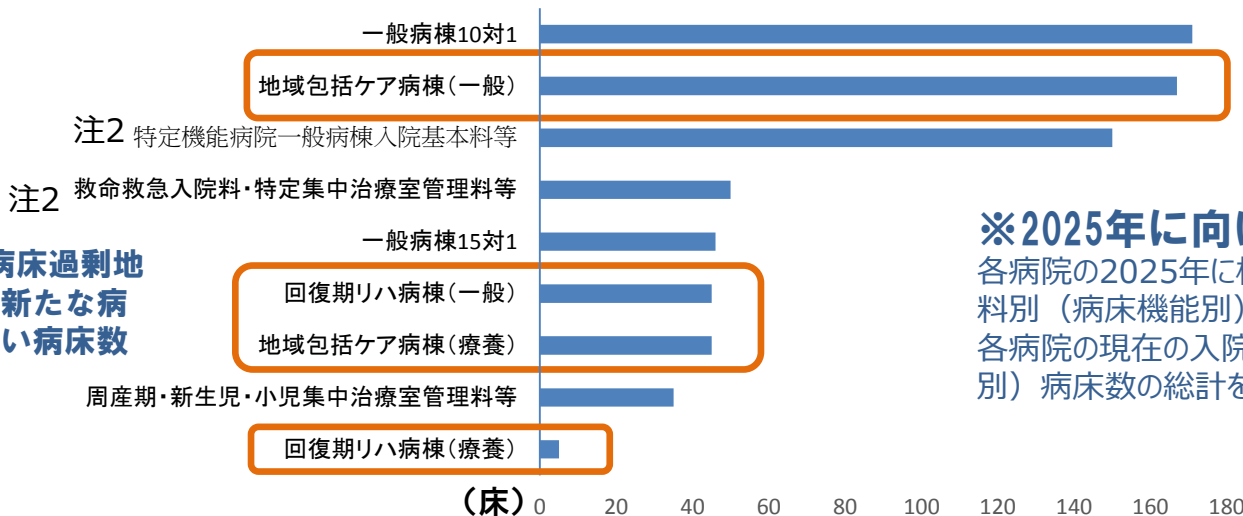
- 「療養病棟入院基本料」は、人口10万人当たりの病床数が府平均より少なく、平均在棟日数が府平均より短くなっている。(スライド26)
- 「療養病棟入院基本料」は、自己完結率は約8割であり、流入超過となっており、一定の需要があると推察される。(スライド27)
- 今後の病床機能分化にあたっては、介護施設系への転換などの在り方にも留意し、検討していく必要がある。(スライド26、27)

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している病床機能

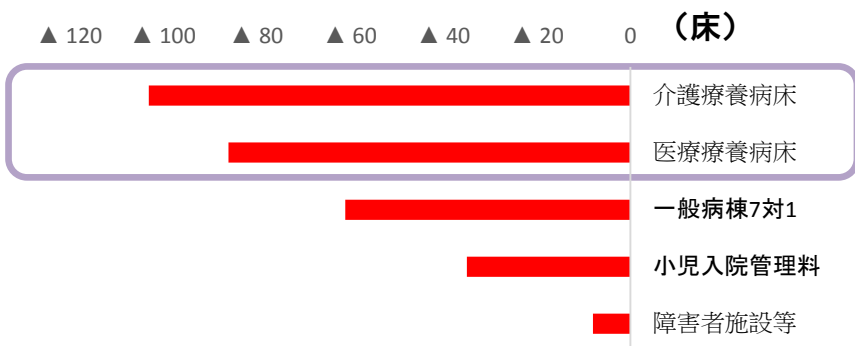
各病院が検討している病床機能等の変更は、構想が目指す病床機能分化の方向性と概ね一致

●入院料別の検討状況※

注2：本圏域が病床過剰地域であるため、新たな病床整備ができない病床数を含んでいる。



※2025年に向けた検討状況
各病院の2025年に検討している 入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出



●公立・公的・民間別の検討状況※

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	全体
公立	0	0	0	0	0
公的	注150	0	0	0	150
民間等	注50	8	152	▲ 156	54
合計	注200	8	152	▲ 156	204

注：本圏域が病床過剰地域であるため、新たな病床整備はできない。

5 将来のあるべき医療体制に向けて (2) 2025年に向け各病院が検討している病床機能のまとめ

- 将来に向けて地域包括ケア病棟の病床数は増加する見込みであるが、一般病棟10対1への転換を検討している医療機関が一定数存在する。
(スライド29)